

☆ 子ども会 (学習会) だより ☆

MY SKY 第16号

マイ スカイ

1996年9月18日水曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責:吉成正士

板中秋祭り「文化祭」も終わり、一息ついたところでしょうか。今年の文化祭は、いつもとひと味もふた味も違ったものになりましたね。学級バザーができ、より活発になったうえに、友達の日頃見えなかった一面が見えたりして、互いの理解にも役立ったのではないかと思います。

私たちは、いろんな「活動」を通して、互いを理解していきます。しかし、それもいつもの仲良し集団では意味も半減してしまいます。学級という集団で、日頃よく知り合っていない仲間を、どう理解していくか。そしてそれを伝え合う中で、互いに向う上する集団としてどう成長していくのか。これが、同和教育を通した「活動」の意味だと思います。

もう一度「文化祭」を振り返って、これらの収穫があったかどうかを各自点検してみてください。そして、より良い学級づくりにつながることを、心から願います。



◎学習会一泊研修(8月24日・25日:大阪羽曳野市・人権博物館リバティおおさか)

前回の続きで、「ゴンタこそがたたかいを」です。先週の前編を忘れてしまった人は、読み返してから、続きを読んでみてください。

ゴンタこそがたたかいを ～部落の青年がたどりついたところ～ (後編)

おと の しゅう へい
音 野 修 平

※前編「一生いたちー」「一中学生時代ー」からのつづき

ーぼくの目覚めー

3年の3学期、ぼくの暴れ方は極限に達した。3階の教室からつくえやいすを投げ、こわしてしまう。学校の窓ガラスをわってまわる。柔道部へなぐりこみをかけ、とめにきた先生までなぐりとばすなど。

だが、こんな調子で授業さえさせない状況にいたって、はじめて他の子から不満が出はじめた。おりから配布された『にんげん』の集中学習のときである。「なんで先

生は音野だけにやさしくするのか。ぼくらに対してきびしいのに、おかしい」と担任がつるしあげられかけたのである。

ぼくは思わず前へとび出して、半泣きで自分の歩んだ道をしゃべりはじめていた。これまでも、ホームルームでは、よほどしゃべろうかと思う場面もあったが、前へ出ると、私語をかわしたり、内職にはげんだりする子をみて、しゃべる気をなくしていた。だけど、担任の先生はぼくを扱いかねてはいたが、いつもぼくのことを考えてくれていたことはわかっていたし、感謝の気持ちもあった。ぼくが問題にされず、先生がやられかけているということが、ぼくを動かしたようにも思う。

みんなは、ぼくの部落民宣言を静かに聞き、感想文を書いてくれた。それには、ぼくの立場になって考えようとするものが多かったうえに、音野を通りこして担任を追求することの差別をわかってくれたものもあった。

ぼくは、中学2年のときにできた「友の会」にはいつていた。だから学級で『にんげん』を勉強していて、問題が出れば、教えられたとおりに説明することはぼくにもできた。しかしこんなことは、教条であり理屈にすぎない。自分のものになっていないために説得力がない。ところが、今度のぼくの訴えは、ぼく自身にとっていわば革命だったと思うし、学級の仲間をぼくの立場に立って考えさせることができたのである。

それ以後、「〇月〇日、部落問題学習をやるから集まれ」などというよびかけが、教室の黒板に書かれるまでに学級の雰囲気は変わった。

卒業式は、そういう盛り上がりのなかでおこなわれた。高校へ行きたい気持ちはあったが、あきらめざるを得なかったぼくにとって、最後の卒業式であった。

一 荒れるころー

中学3年のとき、つまらぬことから保健室で暴れまわった。ある先生にだきとめられ、いろいろと話しあっているうちに、なんのために自分がこんなしょうもないことを続けているのか、荒れる自分がみじめになり、その先生の胸にふせて泣いてしまったことがある。

このときの気持ちと、教師をなぐりつけていたときの気持ちは、けっして別ではなかった。なんともいえない絶望感につき動かされて教師をなぐる心の苦痛は、いまでもそっくり胸に思い出すことができる。部落差別の結果、弁当ひとつ、筆記用具ひと

つとってみてもみんなより劣^{おと}っており、そのことが勉強する気をなくさせ、受験体制^{じゅけんたいせい}のなかで生きがいをなくしてしまった。そんなぼくが、教師の意識のなかに自分の位置をたしかめようとすれば、学校教育の差別的体制などということがわからなかったため、教師や仲間^{こま}を困らせるという手段しかとれなかったのである。しかも、教師をはじめみんなを困らせれば困らせるほど、ぼく自身の心の苦痛はますますエスカレーターし、どうにもしようがなくなっていく。

ついこの間まで机をならべていた友達が、制服を着、カバンをもって学校から帰ってくるところに、ヤクザっぽい背広^{せびろ}を着て、どこへ行くあてもなく、うろつきに出かけるぼくがすれちがう……。このどうしようもない状態をくいとめてくれたのは、同盟支部^{どうめいしぶ}の先輩であった。以前から、支部の若い人達が「同和」教育について教師と話し合うのをみていた。教師に対して一步もひかず、ときには教師のまちがい^{してき}を指摘する姿をみて、あこがれのようなものをもっていった。

卒業後半年たって、左官屋^{さかんや}で働くようになった。このような曲折^{きよくせつ}を経た後、Sさんと出会った。彼はぼくに、「社会科学を勉強せなあかん」としつようにせまってきた。そのころから、主として社会科学を中心に、西光万吉の本などを読んでいた。つらい肉体労働のあと、ただでさえむずかしい本にくらいつかせていたのは、高校へ行っている連中^{れんちゅう}にまけるものかという気持ちだった。それと、読むことによって世の中の矛盾^{むじゅん}がみえはじめたおもしろさであり、十分わかったといえないが、読み終わったあとの気持ちのよさであった。

いままでやってきたことのむなしさが、文字を通して客観^{きやつかんてき}的にわかり、これから生きていく展望^{てんぼう}、すなわち、部落の完全解放のためには、ぼくの力でも必要なのだという確信^{かくしん}が生まれてきた。

ぼくは左官屋はやめ、支部^{しぶ}の常任^{じょうにん}となった。そして、この四月、F高校普通科の定時制に入学した。将来、どうしても教師になりたい。義務教育9年間の横道^{よこみち}を、しっかりふまえた教師になりたいのである。

ぼくが味わってきた、部落差別ゆえのみじめさは、いまなお後輩たちの間に形を変えても生き続けている。彼らは、差別を実感しながらも、どうすることもできないあきらめの中で、方向性^{ほうこうせい}を失い、さわぎ、暴れるのである。教師は、ついそういう子を敬遠^{けいえん}して、いいつけを守るおとなしい子中心に教育をすすめるのだ。しかし、中学を卒業して2年たったいま、当時ぼくといっしょに扱^{あつか}われていたゴンタ連中^{れんちゅう}が、高校

友の会の中心にすわっている。おとなしかった子の中には、顔を出さなくなった者もいる。いったい「中学友の会」は何だったのだろうか。ここにこそ、ぼくが教師になる必要性を感じるのだ。

「^{じとう}自闘の^{こどう}鼓動……まなび かたり おたけべ」著者：^{ちよしや}梅原 ^{うめはら}達也 ^{たつや}

前・後編読んでみて、どんな感想をもったでしょうか？

音野さんは今、みなさんのお父さんやお母さんと同じくらいの^{せだい}世代です。つまり、この文章は昔々の話ではなく、つい最近までひどい社会だったことを伝えています。けど、それは今でも「形を変えて生き続け」ています。見えにくくなっているんですね。多くの部落解放運動に取り組んだ人々のおかげで小さくはなったのかもしれませんが、決してなくなってしまうわけではないのです。だからこそ、タチが悪いのかもしれませんが、でも今こそ、保護者・教師も含めた、大人も子どもも、差別問題について^{しょうめん}正面から向き合い、正しい現実や知識を自分のものとし、「差別をなくしていくために自分は何をどう考え、どう行動すべきなのか」ということを、いろんな人と接していく中で考えていく必要性があるのだと思います。

また現代社会には、どうしても人を見下^{みくだ}したり、いじめたりしなければ生きていけないような関係があります。どうしてそんな関係になってしまうのか？その謎^{なぞ}を^と解くためにも、やはり「社会科学を勉強^{むじゅん}」しなければならないのだと思います。その謎の入口^{いりぐち}に触れただけでも、現代社会の矛盾^{むじゅん}に気づくことができると思います。それに気づけば、自分自身が悩んだり、卑屈^{ひくつ}になったりする必要がないことがわかつていきます。

みなさん！これからの日本を背負^{せお}って立つ若い世代の私たちが、これらの矛盾^{かいしやう}を解^{かい}消^{しょう}するべく、やはり勉強しなければなりません。といっても、^{かた}堅^{くる}く^つ苦^えしく^つ机^えに向かう勉強ではありません。いろんな人と接し、語り合いながら積み上げていく勉強です。ということは、こんな話ができる仲間をつくっていないければ、それも難しいということになりますね。だからまず、差別問題について^{しんけん}真剣に話せる仲間を増やすことなんでしょうね。

ところで、実はこの音野さんが、9月22日に板野中学校にやってくることになりました！！直接その声が聞けるわけです！多くのみなさんに参加してほしいと思います。^{くわ}詳しい日程は次の通りですので、参加希望の人は、9月20日までに必ず同和教育団(阿部・吉成・岩谷・柿原・坂東)まで連絡してきてください！

とき 9月22日(日) 2:00~5:00 ところ 板野中学校大会議室(予定)



◇ これからの日程 ◇◇ ◇

今週末も、1年生宿泊訓練、落語講演会、音野さん来校、手話祭り、行事が選り取り^{よど}みどりで、自分に合った会に参加できるようになっています。「文化の秋」を堪能^{たんのう}してみてください。

なお、この後も二年生の修学旅行、3C、1Bの全体学習、そして2Dによる板野中学校同和教育研究大会と、大きな行事が目白押しです。これらの行事を別個に考えてしまうと、気分がマイナスになってしまうかもしれませんが、それぞれのつながりや共通のテーマを探りながら取り組んでみると、逆にプラスになるかもしれません。ぜひともそのような季節^{きせつ}にしてみてください。

- ★ ★ ★ ★ ★
- 9月20日(金)・21日(土) 一年生宿泊訓練(牟岐少年自然の家)
- 21日(土) 同和問題講演会「『新ちゃんのお笑い人権高座～笑顔美し～』
人権落語家・露の新治」(1:30～:板野町民センター)
- 22日(日) 音野修平さんを囲んで(2:00～5:00:板野中学校)
- 23日(月) 手話祭り(9:30～:吉野川遊園地)
- 24日(火) 『MY SKY 第17号』発行日
- 26日(木) 3年第3回全体学習 3年C組:資料「『進路決定～ゆれる心』に取り組んで」
- 26日(木)～29日(日) 二年生修学旅行(中国・九州地方)
- 10月1日(火) 『MY SKY 第18号』発行日

★ ★ ★ ★ ★

※ 「MY SKY」に関する感想や意見を広く求めています。取り上げてほしいことや日頃疑問に思っていることなど、何でも結構です。ぜひとも吉成までお願いください!

※ 本誌に掲載している参考文献等についてのお問い合わせは吉成までお願いします。みなさんもしっかりと原文を読んでみてください。



板野町解放文化展